

(世界史プリント8-5)

第16章 2. ヴェルサイユ体制下の欧米 3. ファシズムの台頭

a, 世界経済恐慌の発生 (p303)

① [1] アメリカでの株価大暴落をきっかけに [2] 発生
→銀行や工場の閉鎖など相次ぐ=失業者の急増(1932 1200万人)

[3] を除く全世界に波及, ヨーロッパとくに [4] で深刻

↓
1931 [5] =賠償, 戦債支払いの1年間停止

②恐慌の原因

ア) 戦時中の生産設備増強と [6] での経済復興→過剰生産

アジア諸国での産業発達

イ) 企業の合理化(賃金抑制, 雇用伸びず) → [7] の低下, 市場の縮小

ウ) アメリカでの農業不振, 高関税政策による生産過剰, 世界の資金のアメリカ集中・投機

b. アメリカのニューディール (p304)

①フーバー大統領 1931 フーバーモラトリアムの実施

② 1933 [8] 大統領(民主党)の就任→[9] の実施

③特徴 経済活動に対する[10] の介入の強化([11] の理論)

ア) 生産統制

イ) 国民の[12] の拡大をめざす→失業者の雇用拡大

④内容 ア) [13] 法(NIRA) …政府監督による生産調整・価格の規制

イ) [14] 法(AAA) …農産物の生産制限と補助金交付

ウ) 公共事業の実施…[15] (テネシ-溪谷開発公社) など=雇用拡大目的

エ) [16] 法…労働者の団結権・団体交渉権を保障

→労働運動の活発化=産業別組織会議([17])

(→1947 タフト=ハートレー法で労働組合の制限に)

⑤ [18] 外交の展開 (←孤立外交からの転換)

ラテンアメリカ諸国への内政干渉をやめる→1933 [19] の承認

c, 英仏の恐慌対策 (p304)

① [20] 経済の実施

←→「もたざる国」=市場の縮小, 原料などの入手困難→勢力圏の再配分をねらう

②イギリス 1931 [21] 挙国内閣成立=金本位制停止, 保護関税導入

1932 [22] 会議=イギリス連邦内に特惠関税制度樹立

→[17] 結成

③フランス 1932 左翼連合内閣成立→政情不安続く

ブロック経済化すすめる

ブロック経済

本国および[23]、勢力圏を [24] などで経済的に閉鎖、経済的勢力圏(ブロック)設定、他国をしめだす[25] 主義的国際経済政策。[26] や[27] など「持てる国」がとった政策であり、[28] [29] など「持たざる国」を経済的に追いつめ、[30] の方向におしやった側面がある。

d, イタリア=ファシズム (p306)

①大戦後のイタリア

ア) 領土(=[31]) 獲得に失敗→反ヴェルサイユ条約の風潮

イ) インフレーションの高まり→労働・農民運動の活発化=工場占拠闘争→失敗

② [32] 率いる [33] 党(1919 結党)の台頭

→中間層・軍人・地主・一部の資本家の支持を受け、左翼勢力を暴力で攻撃

1922 支持者とともに[34] を実施→政権を奪う

③反対派(とくに共産主義者)の抑圧=[35] 体制の樹立

→ファシズム大評議会を最高機関とする

④侵略の拡大→1924 フィウメ獲得 1926 [36] の保護国化

⑤ [37] 条約(1929)=[38] と妥協、カトリックの支持

→[39] の独立を認める

⑥ 1935 [40] 侵略→1936 併合、国際連盟の制裁を無視

ファシズム

[41] 勢力の台頭、恐慌などの危機に直面した[42] 資本主義国を中心にして出現した反動的、反革命の体制。民主主義や個人の人権などを否定し、[43] を政治的手段としながら、強力な国家や指導者のもとに国民を統合し、国民生活を統制することをめざした政治運動。

[44] 主義や民族排外主義を唱え、国益の優先を説く傾向が強い。